



洗濯ジャーナル

発行元
クリーニングつき山

〒 617-0005 京都府向日市向日町南山十
Tel 075-921-0426
Fax 075-935-5065
http://www.cl-tsukiyama.com

監修
サボリ博士

http://sabori.fc2web.com/
クリーニングよろず相談
http://www.azaq-net.com/bbs/
bbs.cgi?goinkyu

ここに掲載した内容の著作権は発行元・著者にあり、無断転載・転用は、著作権の侵害となる為、固くお断りいたします。

お洗濯の
知識と情報

平成17年3月

VOL.8

テーマ【ドライクリーニング】

ドライクリーニングって、どの様にして洗っているか??ご存じでしょうか。
よく勘違いされるのですが、エマールやアクロンのようなドライマーク洗剤を使って洗うことではありません。
実際に一般の方が、ドライクリーニングを見る機会はずくないと思います。
今回は、そのドライクリーニングについて紹介いたします。

《水ではない》

ドライクリーニングは、石油からつくられたドライ溶剤で洗う方法です。ですから、水ではありません。ドライ溶剤に水を入れると、完全に2つの層に分かれてしまいます。

《トイレットペーパー》

ドライ溶剤の中に、トイレットペーパーをちぎって数枚入れて、クルクルと回すようにかき混ぜると、さて??どうなるでしょうか。
答えは、トイレットペーパーがドライ溶剤で濡れた状態で、形に変化はありません。乾かせば元に戻ります。

《ゴマ油》

次に、このトイレットペーパーにゴマ油に浸します。それをドライ溶剤に入れて、先ほどのようにかき混ぜると、なんとゴマ油がドライ溶剤に洗われて、トイレットペーパーは元のように綺麗な白を取り戻します。
水洗いでは、こんな事は絶対にできません。

《水溶性の汚れ》

しかし、よく考えると疑問がわきます。ドライ溶剤は油をよく溶かすけれども、水とは分離するのだから水溶性の汚れは落とせないのではないか・・・。
たしかにドライクリーニングは、水溶性の汚れは苦手です。しかし、落とせないわけではありません。品質のよいドライクリーニングならば、水溶性の汚れも落とすことはできます。

では、品質のよいドライクリーニングとは、どのようなモノなのでしょう。

《水と混ぜる方法》

水洗いでも、洗剤を使えば油汚れを落とすことができます。ドライクリーニングにも、ドライソープという洗剤があります。ドライ溶剤にドライソープを入れると、ドライ溶剤と水を混ぜることができます。

《水の怖さ》

ところが、やたらドライ溶剤に水を入れると悪影響があります。水が入りすぎたドライ溶剤に、先ほどのトイレットペーパーの実験をすると、水分がトイレットペーパーを溶かしてしまいます。ドライクリーニングでは、過度の水分は縮みや色泣きなどトラブルの原因になります。

《安全な霧》

ドライ溶剤中で水分が安全に作用できる状態を霧でたとえることができます。
湖畔の霧のように、こまかい粒子が均一に立ちこめると身体は濡れません。ドライ溶剤中でも水分がこまかく分散していれば、衣類に悪影響をあたえません。

《もう一つのキーワード》

はなしが変わりますが、ドライ溶剤はすてません。水洗いでは、洗いやすすぎのたびに水を排水して新しい水を使いますが、ドライクリーニングは何度もおなじドライ溶剤を使います。
きたないように思われますが、実はそのとおりでして、管理が悪いドライクリーニングはドライ溶剤もきたないです。
ドライ溶剤をキレイに保つためには、フィルターや活性炭で浄化または蒸留などをしなければならないのです。只、これらはコストや時間がかかります。

《高品質》

簡単に説明いたしました。ドライクリーニングには品質格差があり、ことにドライ溶剤の液管理が重要であることをご理解いただけたかと思えます。

これから益々、高品質なドライクリーニングを目指します。